



東大総長も言っています

夏期講習もついに前期が終了、このあとの中期・集中特訓・後期も引き続き暑さに負けずにいきましょう。

さて夏休みに入ってすぐに恒例の「おもしろ理科実験」を開催しました。今年はアメリカ発の電子回路組立キット little Bits を使ってのワークショップに定員いっぱいの15人の参加者が集まり、日本での販売とPRを行っているKORG社からお二人のインストラクターを迎えて電子回路の仕組みを楽しく学ぶことができました。普段の生活の様々な場面に電子回路が使われていますが、その回路の中でも「電源⇒入力⇒演算⇒表示⇒出力」という役割ごとにそれぞれ別の部品が使われていることがよくわかりました。参加者がチームごとに議論しながら、いろいろ回路のつなぎ方を試している姿が印象的でした。

ところで東京大学の浜田総長が以前何かのインタビューに答えて「僕らは明治維新以後、短時間でたくさんのことを学び、知識の量を増やすのに力を注いできた。その結果、教育水準は他国に引けを取らない地点まで来た。弱いのは議論する、表現する、社会といろいろな接点を持つという点だ。」と述べていました。またグーグル日本法人の製品開発本部長も「教育で本当に大事なものは、ある事象を学ぶことそのものではなく、その学びを通して、学んだこと以外の問題に対処できる力をつけることなんだと思います。」と述べています。夏期講習では毎日連続して授業があるので、そのきっかけを目にすることができます。小5の国語では各自が自分で答えの選択肢を作ってみました。出題者の意図を考える機会となり、何をどう読み取るべきなのかをより具体的に理解できたようです。中2の数学では分度器を使わずに定規とコンパスだけでいろいろな角度を作図する問題を出してみると、複数の生徒たちが相談し試行錯誤しながら休み時間も使って考えていました。

ただ教えられるだけでなく、身につけた知識をどう使っていくかを何気なく実践しているみなさんを頼もしく思いますよ！